

2013年 竹富への旅（第3回 西表島編）



日本では八重山諸島のみで見られるトチカガミ科の海草、ウミショウブの群落を現地のかたに見せてもらった。6月の大潮の日にだけ花が咲き、雄花は雌花を目指して海面を漂う。私が島を訪れた日は、偶然だが大潮だった——

西表島へ

石垣島から竹富島までは船で10分ほどでしたが、石垣島から西表島へは40分かかります。若いカップルの多かった竹富島とは客層ががらっと変わり、双眼鏡や大きなレンズのついたカメラを下げた年配の人々が嬉しそうに船に乗っています。べつに装備を見なくても目付きをみれば分かるのですが、つまりは同じ穴のムジナ、生物に必要な以上に興味を抱いたままうっかり大人になってしまった人々です。

そう、有名な島固有のイリオモテヤマネコ（西表山猫）の名前をあげるまでもなく、この島は生物好きなら誰もが認める聖地です。実際にこのとき、しばらく

会ってなかった北海道で昆虫を研究する学芸員K氏とばったり会い、その聖地っぷりに驚かされました。

島の面積は約290 km²と竹富島の約50倍あり、これは現地で「やいま」と呼ばれる八重山諸島のなかでは最大、沖縄県全体でも沖縄島（沖縄本島）に次ぐ大きさです。ここに約2,300人とウト口の倍近い人が住んでおり、信号機やタクシーもあります。

山猫の島

港につくと、すぐ目立つところにイリオモテヤマネコの目撃情報と交通事故の記録が貼り出されていました。環境省の西表野生生物保護センターが作製した公式なもので、地図に場所や時間などびっしり書き込まれており、いろいろ一目瞭然です。ここまで情報を出すと思用する人もいそうですが、隠すことで守るのではなく、公開して地域全体で守ろうという保護方針は共感できます。記録を追うとこの年すでに死亡事故が発生しており、不謹慎な話ですが「これはチャンスかも」と思わざるを得ませんでした。

というのも、知床博物館で姉妹町竹富町を紹介している交流展示室に「ないもの」の筆頭がイリオモテヤマネコ剥製標本であり、館として入手可能性を探ることはこの旅の目的の一つだったからです。事故→死体→標本→うれしい、といういつも単純な学芸員回路に燃料が投下され、これについてはなんとか滞在中に新たな剥製を作製するための筋道を整えることができました。この成果は今年中に剥製と骨格標本として皆さんにお披露目される予定です。

ちなみに島はやまねこタクシー、やまねこレンタカー、やまねこ農園にやまねこマラソンとやまねこで溢れています。もちろん道路にはやまねこ飛び出し注意の黄色い標識がそこかしこにあり、人気の竹富町のマスコットキャラクター「ピカリヤ〜」もイリオモテヤマネコと、獅子奮迅の働きを見せていました。

おわりに

昨年2013年6月に行った9日間の竹富町調査で訪れた3島を、3回の連載で脈絡もなく紹介しました。紙数の都合でお世話になった沢山の方々や食べたものの、聞いた音楽などを紹介できなかったのは残念ですが、いつかまたどこかで。（内田暁友）

発行 知床博物館協力会 2014.1.26
099-4113 北海道斜里郡斜里町本町49
斜里町立知床博物館内
TEL: 0152-23-1256 FAX: 0152-23-1257
<http://www5.ocn.ne.jp/~museumsp/>